

達成度（評価）

A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

2 学校教育目標

3 本年度の重点目標	① 一人一人を大切にした教育の充実 ② 学力の向上 ③ 健やかな身体を育む教育の推進 ④ 地域と共にある学校づくりの推進
------------	---

(1) 共通評価項目

重点取組		具体的取組		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や留意	
●学力の向上	○学習環境や学習指導法の工夫と改善 ○家庭学習の充実	○6月の算数アンケートで「算数の学習が好き、算数の学習が分かる」と答える児童80%以上、12月の算数アンケートで「算数が好き、算数の学習が分かる」と答える児童85%以上 ○「北っ子ががんばろう週間」において、自分のあてに立てた目標を達成できた児童80%以上	B	・2回目の「北っ子ががんばろう週間」において、「宿題忘れが1つもなかった」と答えた児童の割合86%、「自分のあてが3回以上達成できた」と答えた児童の割合82%であった。6月に比べ、どちらの項目も全体平均の数値が上がっていた。ただ、「テレビ・ゲームの時間が守れた」と答えた児童は1回目77%、2回目75%と、どちらも80%未満であった。これに関しては家庭でのルールを明確に決めるなど、家庭の協力が必要な項目である。	A	・自分で学ぶ習慣ができるようになるにはどうしたらよいものだろうか。 ・何事にも一生懸命に取り組むことが大切である。 ・30数年前の類いのゲームをしたことがある。楽しかった。70～80%程度守れたのなら、自分ならよく頑張っているね。と褒めて欲しいと思う。 ・先生方の頑張りは頭が下がっていると思う。家庭での学習やテレビゲームの時間差は難しい課題だと思う。 ・「A評価でもいいのではないだろうか。授業づくりのための工夫を職員で共有されていることが素晴らしいと思う。 ・家庭学習の取組について、PTA(保護者)との連携について現状を教えていただければと思う。	学びづくり部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートで「学校には、いっしょに遊んだり話したりできる友達がいる。」と回答した児童90%以上 ○「組織運営に関するアンケート」で「いじめ防止等(いじめの定義、防止などのための取組、事案対応等)について組織的対応ができています」と回答した教職員80%以上	A	・「心の木」の取り組みを継続し、温かい言葉や行為を放送で全校に紹介したり、児童のカードを掲示したりする。 ・児童の心の不安に気づき、早期対応するため、月1回と体のアンケートを実施する。 ・異学年交流を図る取組り活動や金立特別支援学校・ぐずり幼稚園等との交流学習を実施する。 ・職員アンケートでは、「いじめ防止等について、組織的に対応ができています」の回答が十分、おおむね合わせて100%であった。 ・毎月の「心のアンケート」および、「いじめ認知後、該当児童に聴き取りをし、関係児童や学年職員とで状況を共有し対応することができた。 ・年3回の人権機会を実施し、多様性を前提とした集団づくりについて考える機会を設けた。	A	・褒めることが最上の方法ですね。 ・毎月のアンケートや「心の木」の取り組みは大変ありがたく、児童の実態把握に繋がっていると思う。 ・子どもたちが安心して学校生活を楽しく過ごさせていることは何よりです。 ・適当な評価だと思う。コミュニケーションに困難を感じる子どもさんがいるなか、指標で高い数値が示されていることは喜ばしいことであり、教育活動における努力の成果だと思う。 ・今後も児童一人一人に寄り添った支援をお願いしたい。 ・いじめ防止の対応が組織的に十分できていることが大変素晴らしい。 ・校内での児童のムード・雰囲気は良好ですね。「元校長先生の方々からも褒められているよ。」と伝えられると、さらにムード維持を期待する。 ・きめ細かな指導に感謝する。 ・いじめの早期発見・早期対応及び問題解決に職員一同でしっかりと取り組まれていることに感心する。これからも「チーム対応」で願います。保護者との連携もしながら、ケースバイケースで対応していく必要があると思う。	心づくり部
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むとするための教育活動	●「先生はあなたの上いところを認めてくれている」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童80%以上	A	・児童アンケートの「先生によいところをほめられたり認められたりしていますか」で肯定的な回答が85%、中間評価に比べ4%向上した。担任はもちろん、学校行事や清掃指導等で、担任以外の教師からもほめられたり認められたりする経験を増やすことができた。 ・「将来の夢や目標をもっていますか。」で肯定的な回答が86%。中学生から中学校生活についての話を聞いた(6年生)、11業種のゲストティーチャーを招いて職業学習をしたり(5年生)することで、将来について考える機会を作ることができた。	A	・褒められると、大人でも喜びます。自治会長をしている自分でも地域の方のお褒め、承認の声に喜びを感じ、子ども達は、褒められると喜び、自信・意欲が向上していきいになると思う。 ・褒められれば誰でも嬉しいもの、とても良い取り組みだと思う。 ・大谷翔平選手の夢ノートは有名だが、まだ夢を描けない子供もいるはずなので、そういう子も認めてほしいと思う。 ・褒めて伸ばす教育には効果とともに弊害もあると思っている。失敗や苦勞を乗り越え、努力する姿に価値があると思っている。 ・将来の夢をもつことは大変素晴らしいことだと思うので、ゲストティーチャーを招いての職業講話など、今後も継続していただきたい。	教務主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●望ましい生活習慣の形成	○学校評価アンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいる。」と回答した児童90%以上	A	・学校評価アンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいる」と回答した児童は91%だった。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」実施週間を6月と11月に設定して、結果を考察し、各学年に応じた事後指導を継続的に行っている。 ・栄養教諭と担任とのT.Tの食育の授業(1年生:お箸の持ち方、2年生:夏野菜について知ろう、3年生:食べ物3つのパワーについて知ろう、4年生:しょうゆについての出前授業、5年生:うま味・栄養についての出前授業)を計画的に実施することができた。	A	・私が「家庭相談員」で回っていた経験からも、かなりの高率である。学校の姿勢がリードしているのだと思う。 ・望ましい生活習慣の形成のためにしっかりと取り組んでいられると思う。食育の授業も各学年に応じた工夫されていると思う。 ・適当な評価だと思う。食の大切さを子どもたちに教養させる取り組みは素晴らしいと思う。家庭ともうまく連携が取れているものと思う。 ・児童の日常生活の変化が見える努力が栄養教諭を中心にされており、食育の授業が充実していると感じた。今後も継続していただきたい。	体づくり部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する(昨年度同月より減) ○県職員員の年休12日以上取得、年末までに80%以上達成	A	・9月以降、1ヶ月あたりの時間外在校等時間が45時間未満の職員の割合が88%であり、大幅な伸びが見られた。職員の意識も高まっており、来年度も更なる業務改善を行っていく。 ・年末までの県費職員員の年休12日以上取得者は30人であり、目標を達成することができた。	A	・自分は授業の事前準備は持ち帰って夜にしている。毎日書かせる日記は家で返事を書いていた。教職に「聖職」と受け止め頑張った。今の(働かない)の在り方は反対。 ・業務改善が大幅進んでよい事だと思う。 ・適当な評価だと思う。根本的な要因が解消され、業務改善につながっているのであれば喜ばしいことである。先生になりたいという子どもが多いことが救いである。 ・A評価でいいと思うが、現実的には難しい課題だと思う。今後も出来る範囲で努力していただきたい。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した教職員70%以上 ○個別の指導計画の目標達成70%以上	A	・生徒指導教育相談協議会では、児童の顔写真と照らし合わせながら、現状や指導・支援の仕方等を共有した。91%の教員がアンケートで「児童の能力や個性を把握・評価し、よい点を積極的に褒めている」と回答した。 ・年間を通して計画的に校内教育支援委員会を開き、児童の実態や保護者の願いを基に、特別支援学級入級や措置替えについて検討した。 ・管理職や担任、教育相談担当者、子ども支援チームや個別の指導計画の作成を共有し、日々の指導・支援に生かした。また、必要に応じて、年度途中に個別の指導計画の追加作成を行った。個別の指導計画の下期の目標達成率は、約75%であった。	A	・この項目は、非常に大事な項目です。どんな子どもでも大人になれば、世の中の構成員となり努力しながら頑張る。「君ははる、頑張れる力がある。」と一人一人に認識させることがすごく重要である。 ・適当な評価だと思う。特別支援教育における先生方の専門性や意識が高まっていること、そしてその努力に敬意を感じる。 ・特別支援教育にかかわる研修を今後も重ね研鑽を深めていただきたい。	主幹教諭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点検証内容	(数値目標)	(評価)	実施結果	評価	意見や改善
○園に応じた教育	○教育相談体制の組織化 ○不登校の解消	○SCやSSW、専門機関等と、月に1回以上情報共有をする。 ○完全不登校の児童をなくす。	A	・月1回以上、SCやSSW、専門機関等と連携し実態把握や支援に努めた。担任の日の対応や別室対応支援員の家庭訪問のおかげで、完全不登校は0人である。 ・管理職等では、週3回、別室対応支援員の日誌に目を通し、情報を共有した。 ・3日以上欠席が続いた場合は、担任が家庭訪問(感染症による欠席の場合、電話連絡)をして状況を把握し、管理職に報告した。	A	・完全不登校がなくなったのは、大変すばらしいことだと思う。感動した。先生方の努力の賜物ですね。 ・細やかな対応で完全不登校もなく、これからも継続していただきたい。 ・妥当な評価だと思う。先生方の努力に感謝する。 ・成果を検証する指標は難しい部分もあると思う。よく努力されていると思うが、支援を要する児童の増加による先生方の負担が心配である。 ・欠席が続いた児童宅への担任の家庭訪問には頭が下がる。すばらしい。
○地域と共にある学校づくりの推進	○保護者や地域住民との情報の共有化 ○保護者や地域との連携強化	○学校評価アンケート「学校は、学級・学年により、連絡帳や電話などで、子どもの様子がわかるように伝えている」と回答した保護者90%以上 ○学校評価アンケート「授業参観や懇談会、学校行事には可能な限り参加している」と回答した保護者80%以上	B	・月1回以上、学校便り・学級便りなどで児童の様子や行事等について情報を発信した。アンケートでは87%の保護者が「学校は、学級・学年により、連絡帳や電話等で、子どもの様子がわかるように伝えている」と回答した。 ・保護者には、授業参観、運動会、きたきた祭り等に多数参加いただいた。アンケートでは95%の保護者が「授業参観や懇談会、学校行事には可能な限り参加している」と回答した。 ・公民館に「心の葉」を掲示するコーナーを設けて毎月更新した。	A	・学校便り等は、各地区で回す回覧板にて、それぞれで回している。地域としては十分協力していると思うので、A評価でいいと思う。 ・負担にならないよう進めてください。公民館も協力します。 ・本校における「きたきた祭り」など、PTAを中心に盛んに活動されていると思う。これからも各自治会、各団体が小学校の子ども達のために協力して推進していただきたい。 ・学校便りは子ども達の様子が分かり、とても楽しみにしている。 ・学校はよく目録情報発信を行っていると思う。これからも情報共有を含めよろしくお願いしたい。

●...黒共通 ○...学校独自 ●...志を高める教育

5 総合評価、次年度への展望

学校評議員会において学校の現状や今年度の取組について説明したところ、すべての委員から肯定的な意見をいただき、8項目のうち全ての項目においてA評価「十分達成できている」をいただいた。全職員が共通理解・共通実践のもと組織として取り組んできた成果だと考える。次年度に向けて、以下の点を改善していきたい。

- ・多様な子ども達が安心して学べる学校づくりに向けて、まずは「学習のきまり」を年度当初共通理解を全職員で意識しながら徹底を図り、より充実した学校経営をつづけている環境を整えていく。
- ・一人一人大切にしたい教育の実現のために、「心と体のアンケート」、「心の木」の取組、「いじめ宣言」、「人権教室」等、今後も全職員による情報共有を基盤として組織し、自他を大切にする心の醸成を図っていく。
- ・学力向上に向けて、次年度も基礎・基本の定着を基盤に、児童が主体的に学習し、考えを深める言語活動の充実を目指し、教師の指導力向上に資する研修を深めていく。
- ・今後も行事等の見直しをしながら、個人の目標をさらに具体的に考えて、教師の意識を高め、業務改善、教職員の働き方改革を更に推進していく。